

10月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和3年10月末現在〕

令和3年11月12日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「売上高」「収益状況」は悪化したが、「景況」は改善した。

業種別では、製造業では「収益状況」は悪化したが、「景況」、「売上高」は変化なしであった。非製造業は「売上高」、「収益状況」は悪化したが、「景況」は改善した。

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が解除された事で、景況の改善に繋がった。しかし、石油価格の高騰による資材や配送費等の値上がりや、仕入原価の上昇等により、幅広い業界で収益が悪化している。

景況DI

製造業は、前月比増減なしの▲30.8ポイント、非製造業は、前月比16.6ポイント改善の▲29.2ポイント、全体では、前月比8.0ポイント改善の▲30.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比増減なしの▲30.8ポイント、非製造業は、前月比4.2ポイント悪化の▲25.0ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の▲28.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲42.3ポイント、非製造業は、前月比8.4ポイント悪化の▲54.2ポイント、全体では前月比8.0ポイント悪化の▲48.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品製造業	学校給食パン	10月になり、県全体で学校給食が再開となり、稼働が始まった。しかし、給食が停止された中で人員が離れた事業所も多く、補充しようにも募集しても応募がなく、人手がない。相変わらず人手不足の状態である。前月に給食停止の日が多かったため、今月は加工賃がほぼ入らない。資金繰りに苦労している組合員が多い。
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県9月の清酒課税移出数量は前年同月比92.1%であった。8月までの実績と比べてマイナス率が縮小されているように見えるが、コロナ禍前の前々年同月比では70.2%の減でかなり厳しい。本格焼酎については、前年同月比65.3%であり、前々年同月比では52.1%とさらに厳しい状況。当県を含め首都圏で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、酒を取り巻く環境は非常に厳しかった。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるもののコロナ禍で国内マーケットが不安定の中で輸出に力を入れて、令和3年8月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、122.8%と好調であった。コロナ禍が落ち着いている、香港・中国が好調で、香港・中国・米国で輸出の60%以上を売り上げている。 ○県内当業界について 新型コロナウイルスワクチンの接種も進んできており、緊急事態宣言も解除され、外飲みも増加しつつある。最大の需要期である年末年始の新型コロナウイルスの感染状況と消費者の動向が懸念となっている。
	納豆	石油価格の上昇による配送費や資材類の値上げに加えて、最低賃金の引き上げによる人件費の上昇等により、収益が悪化。しかし、価格競争もあるため、販売価格の値上げは困難である。最近、消費も落ち込んでおり、業界全体が厳しい状況となっている。
	菓子	県内でも新型コロナウイルスの感染者が0の日も出てきているが、一度冷え込んだ経済が上向きになるのはまだ先のようなのである。
繊維工業	袋物	緊急事態宣言も解除されたが、今月はまだ様子見で動きはない。選挙後の動きに期待している。
木材・木材製品	製材	・ウッドショックにより、多くの需要が月の前半に集中したため、荷動きは停滞しているが、杉KD3m105柱材、桧の4m105土台、3m柱材の不足状態が続いている。 ・原木については、杉は強保合(価格が上昇したまま、保っている状態)で推移、桧は引き合いが強い状況。 ・外材は構造材の出荷が順調に推移した。
	県北地区プレカット	木材価格は仕入価格・販売価格共に高値安定。米松KD平角が発注から納期が2か月かかり、合板の納期が遅れはじめ、一部加工予定の遅れが出はじめた。加工坪数は当月目標の60%であった。
	県央地区プレカット	木材納品予定がまだまだつかめない部分はあるが、納品日程が確定してからの加工スケジュールを組んでいるので、現状はウッドショック以前とは大差なく仕事は進められている。納材次第ではあるが、大型物件の加工も決まってきた。
紙・紙加工品	段ボール	当月は生産数量が減少しており、前年同月比で1割近く減少している組合員もいる。全体的に当月はお客様の商品の生産が少なく、それに伴って商品を入れる段ボールの生産も減少した。お客様からは、一部外国からの部品が入らず、商品の生産が出来ないとの声も聞かれる。
印刷	総合印刷	前年同月と比較した状況は、新型コロナウイルスの感染者数がだいぶ減少してきたものの、前年と同じくコロナ禍にあって低水準の不変である。今後、年末年始にかけて新型コロナウイルス感染の第6波が心配されるが、ワクチン接種も進み、一時の悲壮感は和らいでいるように感じる。しかし、紙からデータへの移行は着実に進んでいる。中小印刷業者にとって、この不安感は大きい。
窯業・土石製品	陶磁器	新型コロナウイルスの感染状況も、一時と比べると全国的に落ち着いており、飲食やイベントの規制も解除されてきている。日常生活を取り戻しつつあると思うが、引き続き感染防止対策はしっかりと行い、その上でイベントを実施したいと考えている。
鉄鋼・金属	鉄鋼	受注量では自動車関連部品が前年同月比で半数近くまで落ち込んだ。建築関連部品は堅調で2割程度増加した。しかし、取引先全業種を考慮すると、前年同月比で1~2割の減少であった。組合員は自動車関連部品の比重が重いため、11月からの生産増加に期待している。 金属材料は、鉄や銅など全ての金属が値上がりしている。貴金属は高値安定の状態である。工業薬品については、基礎材料を除いて価格は平年並みであったが、今後値上がりの可能性がある。灯油・ガソリンも含め石油関連製品も値上がりしている。
一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は、前年同月比ですべて増加となった。全体増減率は前年同月比125%であった。前年同月がコロナ禍による売上大幅減少という要因があるものの、当月も前月に続いて直近5年間で最大の売上高を確保。組合員数は横ばいではあるが、業績は改善傾向が続いている。
輸送用機器	県北地区自動車部品	売上は徐々に上向きつつあるものの、部品供給が不安定な状態にあるため、不安が残る。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比7.17%減少。県の非常事態宣言等の規制は解除になったものの、厳しい状況が続いている。サンマに続き秋鮭の不漁、輸入商品の品薄状態等が続いているため、販売価格が高値で推移している。新型コロナウイルス感染拡大の第6波を警戒して、今後も厳しい状況が予想される。
	セメント卸	袋セメントの出荷袋数は前年同月比約15%の減少。官需の減少と前年同月の反動落によるものである。
小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比116.5%、客数は同111%で、前年同月の売上を確保した店舗は50%であった。今月で退店する店舗の閉店セールがあったため、全体的に良い実績となった。
	県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店の売上(客数)は前年同月比99%(101%)であり、前年とほぼ一緒となった。食品101%(102%)、飲食103%(102%)、ファッション85%(85%)となり、緊急事態宣言が解除されたが、ファッション・身回り装飾の売上は伸びていない。10月28日から30日まで、年2回開催の「特別ご招待会」を開催したことと、9月より開始した市のプレミアム付き商品券の使用もあり、前年同月程度の売上は確保できたが、年末年始に向けて前年以上の売上・客数を狙いたい。市内では10月23日から「菊祭り」が開催されており、当施設でも入口に菊30鉢を展示している。
	県南地区共同店舗	緊急事態宣言の解除や、コロナ終息に向けた雰囲気もあり、イベント・催事等も少しずつ開始。食料品・飲食が活気を取り戻しつつある。前年と今年で特招会の月が異なった影響もあり、文化品の売上が前年同月比でやや落ち込んでいるが、全体の雰囲気は良くなっている。また、前々年の売上には及ばない状況である。売上は前年同月比で全体90.5%、衣料品82.7%、文化品48.0%、食料品103.1%、飲食104.8%、サービス87.4%となった。 前々年同月比の売上は全体91.5%、衣料品78.8%、文化品76.1%、食料品95.0%、飲食97.9%、サービス88.8%となった。
	家電	新型コロナウイルスに打ち勝とう、をテーマに、販売を維持するため、組合員は独自の工夫で自店のアピールをして、お客様に役立つ販促をしている。具体的には、HP・SNS・ブログ等を用いている。お客様と繋がるためのツールとして大切であり、今後更に充実化させたい。組合員を集め、講習会等を実施して展開させていきたい。
	燃料小売	原油価格の高騰が続いており、今後しばらく続くと予想されている。ニュースやメディア等でも原油価格の上昇やガソリン小売価格の上昇について報道されるようになった。レギュラーガソリンの全国平均の小売価格は既に160円を超えており、自動車ユーザーには大きな負担となっている。そのため、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁する事が難しい状況である。
	農機具	各種原材料の値上げで、製造品の部品についても値上げが始まっている。
	中古自動車	販売価格が前年同月比109.8%と大きく上昇したが、販売台数が同87.6%と減少し、売上高も減少する結果となった。海外の部品調達難による新車製造の遅れが続いており、中古車流通価格の高騰と小売価格への転嫁が販売価格の上昇に繋がっている。
	食料品	食品流通業により、組合員は食のライフラインを担っている。そうした中、10月1日で緊急事態宣言が解除され、売上の改善を見込んでいた。しかし、消費者の購買行動は予想よりも鈍く、新型コロナウイルスにまだ警戒感があったため、売上・客数は前年同月の数値を割って推移した。10月後半に入ると、徐々にだが売上・客数も回復傾向になってきている。今後も、新型コロナウイルス感染対策も万全にし、「安心・安全」な店にして、消費者のライフラインを担っていく努力を行っていく。
	野菜・果実	当月は、前年同月比が野菜果実合計で77%の取扱高となった。寒さも徐々に深まり、白菜やキノコ類など鍋食材の需要が高まったものの、ほとんどの野菜は出荷が潤沢で、一か月を通して売上高、価格ともに低水準で推移した。
	商店街	水戸
筑西		ガソリンを始め、食用油や食材等様々な物の価格高騰により、仕入原価が上がり、収益の悪化に繋がっている。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車が86.49%、軽自動車が96.13%(全体で90.19%)であった。前年同月比で普通車においては1割以上の13.5%の減少が見られ、全体でも約9.8%の減少が見られた。原因は、コロナ禍と新車の納車の遅れが影響したのも考えられるが、不明である。
	ホテル・旅館	緊急事態宣言の解除等により、少しずつ県内外の人流が動き出すとともに、停止していた「いば旅あんしん割事業」が再開されたことは、非常に期待できるものである。しかし、長引いた自粛期間は、慎重な行動を根付かせ、これまでのような集客・誘客には、時間がかかりそうである。
建設業	総合	本年度も下半期に入り先月に続き土木工事受注は増加し活況である。逆に各社とも工事施工余力がなくなり受注したくても受注できない状況になりつつある。今後入札不調が懸念される。 技術者、作業員不足は深刻な状況でこれは発注者も理解しているようだ。建築資材はコロナ禍の影響で輸入建材が入荷できず工事遅延は避けられない状況だ。
	型枠工事	今月の業況は例年と変わらない。その中で、土木や建築の公共工事が順調に発注されている。ただし、県南や県西地区に偏っているため、平均すると例年通りという状況である。また、ウッドショックのほかにスチールショックまで発生し、建築業界の収益状況は、かなり悪化している。

非
製
造
業

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和3年10月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非製造業	一軽貨物運送	当月の組合員数は116名、車輛台数は148台で前月と比較して増減なしとなった。また、運送売上高については、前年同月比138.7%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は7,232名、車輛台数8,635台で前月と比較して62名減少、32台減少であった。
	県北地区一般貨物	主要顧客の動向の影響で、コロナ禍における部品調達減等の影響もあり、出荷物量がコロナ禍以前の物量には戻らず、依然減少したまま継続している。一方、燃料価格は高値からさらに上昇しており、収益も益々厳しい状況が継続している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増加の要望
	清酒	緊急事態宣言も解除されたが、今後第6波の到来が懸念される。再度緊急事態宣言が発令されることがあれば、酒の供給側への行政からの追加の月次支援金等の財務支援の速やかな対応をお願いしたい。また、ワクチンにより重症者が増えない状況であれば飲食店での酒の提供の禁止では無く、酒類の提供に関する新たなルールの策定をお願いしたい。
小売業	県央地区共同店舗	店舗の退店により収入が減少している。協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金の情報を教えて欲しい。
	燃料小売	揮発油税に課税している二重課税の廃止。 コロナ禍が収束しつつあるので、高速道路の通行料金一律1,000円の復活等の経済政策
建設業	総合	公共工事で年度予算による年度内完成工事を強いられる工事があり、受注会社はその対応に苦心している。工事に必要な資材がコロナ禍の影響で手に入らないのは不可抗力であるので、工期の延長等柔軟な対応をお願いしたい。
	型枠工事	先日、県建築関連団体交流会に参加してきた。その際に、県土木部や建設業協会に対し、将来の建築業を支える担い手の確保や働き方改革推進をさらに促進し、魅力ある職場環境の整備に対し、ご協力・ご指導をお願いしようをいう交流会事務局案を拝見した。これに全面的に賛成である。

月次景況調査 10月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	10月	9月	前月比	10月	9月	前月比	10月	9月	前月比
景 況	▲ 30.0	▲ 38.0	8.0	▲ 30.8	▲ 30.8	0.0	▲ 29.2	▲ 45.8	16.6
売 上 高	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 2.0	▲ 30.8	▲ 30.8	0.0	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 4.2
収 益 状 況	▲ 48.0	▲ 40.0	▲ 8.0	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 7.7	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 8.4
販 売 価 格	4.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	8.3	4.2	4.1
取 引 条 件	▲ 10.0	▲ 12.0	2.0	▲ 3.8	▲ 11.5	7.7	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 4.2

中小企業月次景況調査(令和3年10月)DI値(前年同月比)

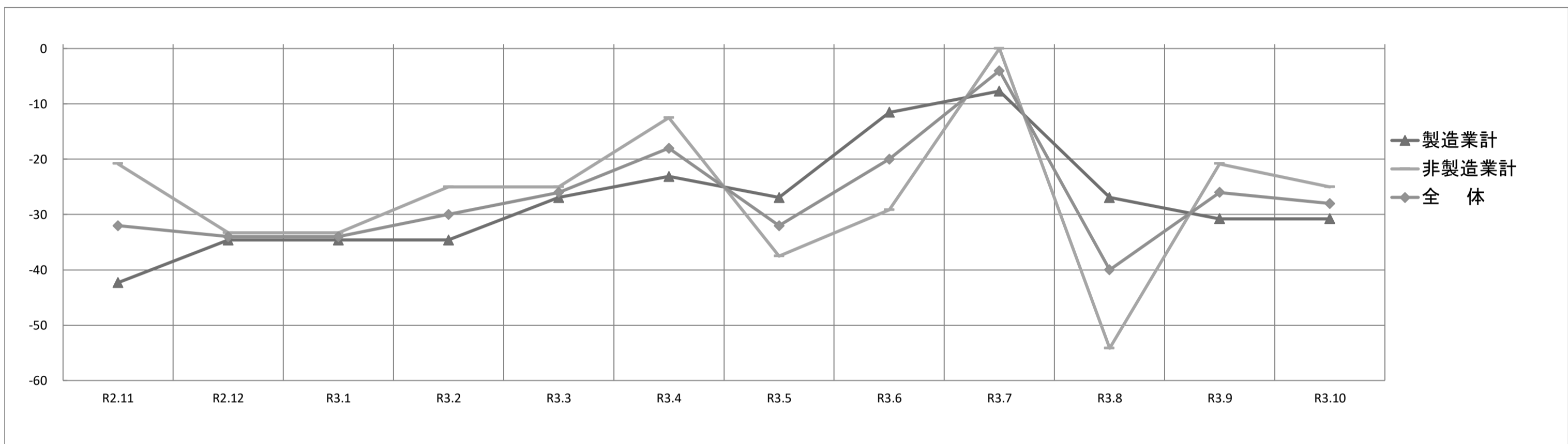
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 66.7	1	0	5	6	△ 16.7	1	3	2	6	0.0	0	6	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 83.3	0	1	5	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 83.3	0	1	5	6
	繊維工業	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5
	鉄鋼・金属	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	33.3	1	2	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
製造業計	△ 30.8	4	10	12	26	△ 7.7	2	20	4	26	0.0	2	22	2	26	△ 3.8	1	23	2	26	△ 42.3	2	11	13	26	△ 23.1	0	20	6	26	△ 23.1	1	18	7	26	△ 15.4	0	22	4	26	△ 30.8	2	14	10	26	
非製造業	卸売業	△ 100.0	0	0	3	3	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	2	1	3	△ 100.0	0	0	3	3	△ 33.3	0	2	1	3					0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小売業 (商店街含む)	△ 33.3	2	4	6	12	0.0	0	12	0	12	16.7	3	8	1	12	△ 33.3	0	8	4	12	△ 66.7	0	4	8	12	△ 33.3	0	8	4	12					△ 8.3	0	11	1	12	△ 41.7	0	7	5	12	
	サービス業	△ 100.0	0	0	2	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2		
	建設業	40.0	2	3	0	5					0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5					0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5		
	運輸業	50.0	1	1	0	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	非製造業計	△ 25.0	5	8	11	24	0.0	1	13	1	15	8.3	4	18	2	24	△ 16.7	1	18	5	24	△ 54.2	1	9	14	24	△ 29.2	0	17	7	24					△ 12.5	0	21	3	24	△ 29.2	1	15	8	24	
全体	△ 28.0	9	18	23	50	△ 4.9	3	33	5	41	4.0	6	40	4	50	△ 10.0	2	41	7	50	△ 48.0	3	20	27	50	△ 26.0	0	37	13	50	△ 23.1	1	18	7	26	△ 14.0	0	43	7	50	△ 30.0	3	29	18	50	

D I 値推移表 (R2.11月 ~ R3.10月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	5.0	10.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 11.5	▲ 7.7	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 30.8
卸売業	25.0	▲ 50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 50.0	100.0	33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 36.4	▲ 36.4	▲ 36.4	9.1	▲ 16.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 8.3	▲ 66.7	▲ 25.0	▲ 33.3
サービス業	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0
建設業	0.0	0.0	0.0	20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	40.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0
非製造業計	▲ 20.8	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 29.2	0.0	▲ 54.2	▲ 20.8	▲ 25.0
全体	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 34.0	▲ 30.0	▲ 26.0	▲ 18.0	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 4.0	▲ 40.0	▲ 26.0	▲ 28.0

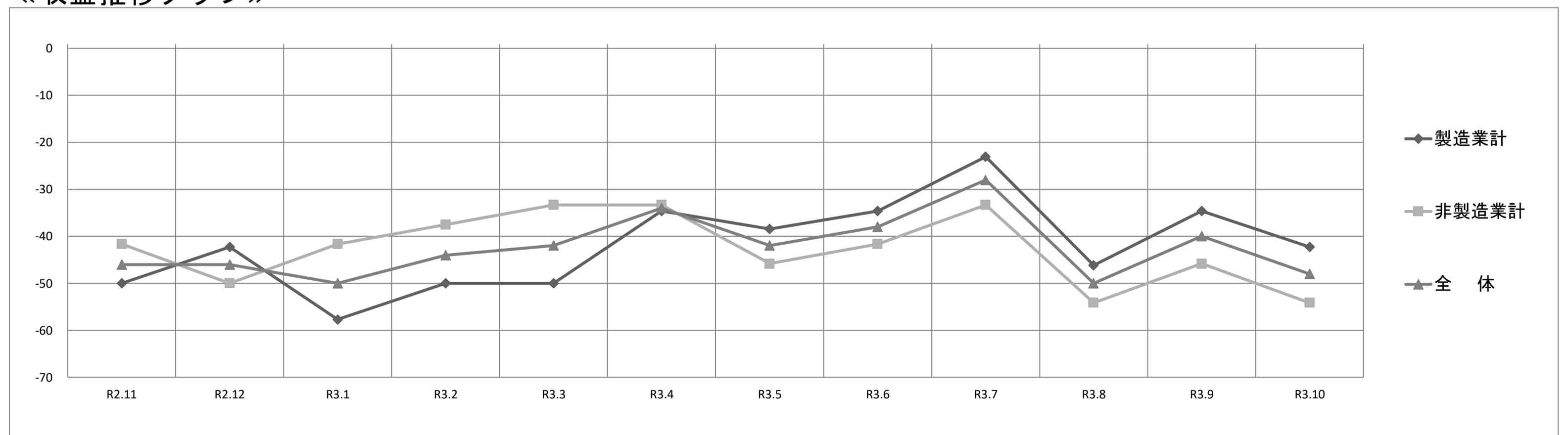
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 50.0	▲ 35.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 30.0
製造業計	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 46.2	▲ 34.6	▲ 42.3
卸売業	25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0
小売業(商店街含む)	▲ 72.7	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 36.4	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 54.2
全体	▲ 46.0	▲ 46.0	▲ 50.0	▲ 44.0	▲ 42.0	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 48.0

《収益推移グラフ》

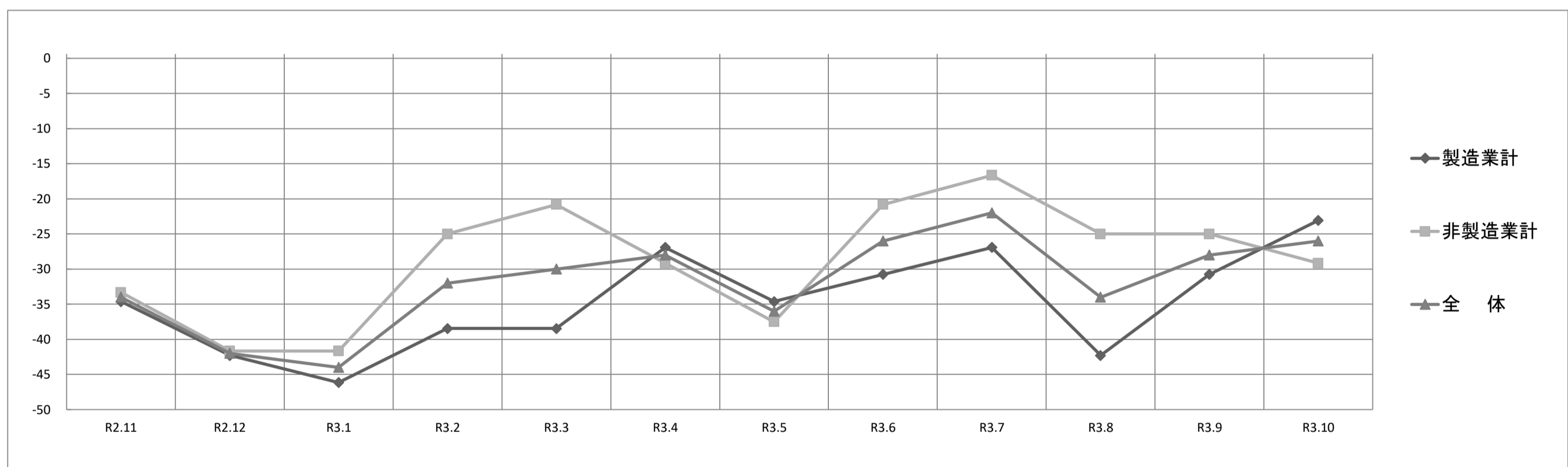


D I 値推移表 (R2.11月 ~ R3.10月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 10.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 23.1
卸売業	25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 37.5	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2
全体	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 28.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 26.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 45.0	▲ 30.0	▲ 55.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0
製造業計	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 57.7	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 30.8
卸売業	25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 41.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0
建設業	20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 29.2
全体	▲ 42.0	▲ 46.0	▲ 52.0	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 32.0	▲ 38.0	▲ 40.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 38.0	▲ 30.0

《景況推移グラフ》

